

地域の食文化の継承（第34回国民文化祭・にいがた2019）

文化庁では、都道府県等と共催で、観光やまちづくり、国際交流、福祉、教育、産業などの施策と有機的に連携しつつ、地域の文化資源等の特色を生かした文化の祭典として、「国民文化祭」を昭和61（1986）年から毎年開催しています。

令和元（2019）年9月15日から11月30日までの77日間にわたり開催された「第34回国民文化祭・にいがた2019」では、新潟県南部の「妙高・上越エリア」において、「発酵文化の礎を築いた先人たち」をテーマとして、地域の先人の偉業や歴史について振り返るイベントを開催するとともに、新潟県内の各小・中学校において、地場産の食材や郷土料理を取り入れた「和食給食」を実施するなど、和食のすばらしさを子供たちに伝えました。また、東京では、「国民文化祭・にいがた2019」のプレイベントとして、同年8月に、農林水産省の協力の下、次世代を担う子供や子育て世代に対し、新潟の食文化を発信するイベント「子供に伝えたい食文化～和ごはんってなあに？～」を開催しました。

（新潟）

○「発酵文化の礎を築いた先人たち」をテーマに、9月から11月に新潟県上越市、糸魚川市、妙高市で、発酵の歴史を学びながら、郷土の発酵食品を使用した料理を味わい語らう「発酵リレートーク」、えちごトキめき鉄道の貸切列車を利用し、発酵文化を堪能する「発酵列車」といったイベントが実施され、発酵を中心とした地域の食文化を再認識する契機となりました。

○「和食」をテーマに、地元生産者の協力の下、栄養教諭や学校栄養職員が中心となって「和食給食」を実施するなど、各学校で和食文化を次世代に継承する取組を実施しました。

（東京）

○新潟の食文化の魅力を通して、新潟で開催する国民文化祭への関心を高める親子向けイベント「子供に伝えたい食文化～和ごはんってなあに？～」を8月に渋谷区で開催し、約60組の参加がありました。当日は、新潟の食文化を象徴する「お米」をテーマとした講演や、忙しくても身近な材料で手軽に調理できる「和ごはん」レシピの実演、クイズ形式で新潟の食文化や名産品を紹介するコーナーが設けられ、子供たちが楽しく学ぶ機会となりました。



「和食給食」の例



「和ごはんってなあに？夏休み子供相談室」